

あおぞら



医療理念

1. 医療の原点に立った心温まる医療
【Humanism】
2. 高度医療の提供
【High Level】
3. 職員一同連携し仕事を通じての
人間的成長 【High Growth】

目次

- 「患者様」から「患者さん」へ 2
- NEW FACE 医師 3
- 糖尿病センターのご紹介 4
- 5時間リレーマラソンに参加しました!! 6
- ホームページがあたりくなりました! 6
- 教室のご案内 7
- 外来週間診療予定表 8



「患者様」から 「患者さん」へ

副理事長
山下 修史



今年から当院では「患者様」という呼称を廃止し、患者さんの呼び方を「〇〇様」から「〇〇さん」へ統一することにしました。そもそもこの「患者様呼称」は2001年に厚労省が国立病院・療養所向けに出した「医療サービスの向上における指針」の中で、患者には原則として姓に「さま」を付するよう求めたのが発端です。これが厚労省勧告のように受け取られ全国の多くの病院でいわゆる「患者様」呼称が広がりました。

しかし、当初より、この「患者様呼称」は現場の医療従事者ばかりではなく、患者さん側からも「違和感がある、他人行儀、親しみがわかない」などマイナスの意見も多く、またある国語学者から「そもそも患者という言葉自体が既に悪い印象を与えているため、いくら様を付けてもらってもうれしくないし病人様・怪我人様・老人様など、いくら頑張っても敬うことにはならない」と日本語としての誤用を指摘する声もありました。さらに「様呼称」は患者側への心理的影響として「誤った権利意識・お客様意識」を助長し、そのような意識の変化が、いわゆるモンスターペイシエントを生んだとする見方もあり、その社会的意義も問われることになりました。そのような経緯があり、その後、全国の医療機関で次々に「患者さん」「〇〇さん」へ戻す回帰現象がおこりました。今回、長崎市内の病院を調査しましたところ、ほとんどの病院は既に「患者さん」「〇〇さん」に戻しているようでした。当

院では今まで「患者様呼称」については、病院としての統一見解は示していませんでしたが、今後は原則として「患者」または「患者さん」、姓名の呼称は「〇〇さん」に統一することにしました。

「〇〇様」で統一されているホテルやデパートのお客様は、いわゆる自社の商品やサービスを販売する対象である顧客ですが、病院は小売業でもサービス業でもありません。つまり病院の患者は顧客ではありません。国民皆保険の財源には多額の税金が投入されており、医療は公共財です。国民みんなが平等に大事に使われるべきものです。

医療者—患者の関係は、あくまでも対等であり、共に病と闘う「パートナー」です。いくら呼び方を変えても患者さんと我々医療スタッフの関係が変わるものではなく、お互いの信頼関係こそ最も大事にされなければならないものです。これからも、一人でも多くの患者さんから信頼される医療人、病院を目指して職員一同努力していきましょう。





- ①氏名 ②診療科 ③学会等資格
④出身地 ⑤趣味・特技 ⑥自己PR

医師



- ①有森 春香(アリモリ ハルカ)
②糖尿病内科
③日本内科学会認定内科医
④長崎市
⑤趣味:読書
特技:剣道
⑥医師6年目となります。

未熟な点多々ありますが、精一杯頑張っていきたいと思っておりますので
よろしくお願い致します。



- ①吉良 圭史(キラ ケイシ)
②消化器内科
③なし
④長崎市
⑤趣味:釣り

- ⑥4月より2ヶ月間お世話になります。大学時代はラグビー部でした。
お酒が好きです。よろしくお願いします。



- ①池辺 絢(イケベ アヤカ)
②外科
③JATECプロバイダー
④福岡県大川市
⑤趣味:食べ歩き
特技:テニス

- ⑥いつも明るく笑顔を絶やさずに診療にのぞみます。
手術には貪欲に取り組みます。よろしくお願いします。

糖尿病センターのご紹介

糖尿病センター長 赤澤 昭一

概 略

光晴会病院の糖尿病センターは北棟2階にあり、主として外来診療が行われています。2017年3月までは、赤澤、世羅、荒木の医師3名、また荒木医師の後任に有森医師が着任し、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士などのコメディカルのスタッフと共に、糖尿病診療を行っています。糖尿病外来は月～金までの毎日、入院は、「糖尿病教育入院」、即ち、糖尿病に関する教育(糖尿病教室)と治療(血糖コントロールの改善)を行っています。また、糖尿病患者さんの会「青空の会」があり、勉強会や食事会(年3回)などを開いています。また、糖尿病患者さん向けの講演会「糖尿病セミナー」(年2回)も開催しております。

入院診療について

糖尿病教育入院が中心となります。

1 新規の糖尿病や血糖コントロールが悪化、また、糖尿病合併症が進行した場合など「糖尿病教育入院」を行います。入院期間はだいたい2週間以内です。糖尿病治療の根本は食事、運動治療です。適切なカロリーとバランスを備えた糖尿病食を食べて頂き、食事の量やバランス食の内容を実感して頂きます。また、当院の運動療法の施設において理学療法士の指導の下に、運動療法を行います。これらを体験している間に経口糖尿病薬やインスリンによる治療を行います。多くは、1～2週間で良好な血糖コントロールを得ることができます。経口糖尿病薬で血糖コントロールが十分得られない場合、インスリン注射を行います。多くの場合、頻回に(1日3～4回)インスリン注射を行うことが必要です。高齢者などでは、退院後にもこのような頻回のインスリン注射を継続することが困難な場合が多くみられます。最近、登場した持効型GLP-1作動薬は一週間に一度注射を打てば良く、低血糖もなく、手技も極めて簡単です。この持効型GLP-1作動薬と(基礎インスリンを補充する)持効型溶解インスリン、最近では超速効型インスリンを含んだ持続型溶解型インスリンも利用できるようになり、両者の注射を組み合わせることにより、ほぼ一日一回注射で、低血糖もほとんど無く、しかも良好な血糖コントロールを得ることができます。とくに高齢者にも簡便に行える、やさしいインスリン治療法として使用しています。

2 「糖尿病教室」

毎月定期的に「糖尿病教室」を開催しています。その内容は昼



食をはさみ行われています。昼食前に食事療法の原則と役割、食品交換表の使い方などを解説し、昼食の献立を解説した後に、管理栄養士と共に昼食を頂きます。食事を摂りながら、献立や調理の仕方などについて質問に答える形で行われています。昼食後は医師、看護師、薬剤師、理学療法士により講義が行われます。糖尿病はどのような病気か、運動療法はどのように行えば良いか、糖尿病の治療方法、糖尿病の合併症、日常生活の注意など解説します。糖尿病の療養生活を送る上で必要な知識を学んで頂き、日常生活に役立てて頂くことを目的とします。

外来診療について

1

糖尿病外来:月曜から金曜まで毎日、2診体制で、糖尿病外来の診療を行っています。外来診療は良好な血糖コントロールを維持し、糖尿病合併症を予防し、糖尿病を持たない人と同様の健康な生活を営んで頂くことを目的としています。外来診療の流れは看護師が体重、血圧を測定し、採血を行い、血糖、HbA1c、脂質などを測定します。血糖コントロール状況や動脈硬化の促進する脂質が上昇していないかどうかを見ます。血糖コントロールが悪化した場合は管理栄養士が栄養指導を行い、食生活の問題点などを指導し、それでも改善しない場合、入院して頂くか、外来においてインスリンの治療(導入)を行います。

2 栄養指導(管理栄養士):食事療法は糖尿病治療の根本です。糖尿病食は適正カロリーとバランスの取れた食事で、また、動脈硬化も予防する「長寿、健康食」でもあります。

糖尿病の治療を行う上で、栄養指導を適切な時期に組み入れ、血糖コントロールの改善を行うことはとても重要です。初診時には必ず栄養指導を行います。血糖コントロールが悪化した場合など、すぐに食事内容を見直し食生活の改善を指導します。とくに、継続した栄養指導が重要で、栄養指導を繰り返し行いますと、多くの場合HbA1cが改善します。



3 フットケア(看護師):糖尿病性末梢神経障害は足(裏)から始まります。(神経障害により)感覚がにぶくなっていると、皮膚の肥厚や水虫やタコ、鶏の目などの病変に亀裂が生じて気づかない場合があります。そのまま放置しますと潰瘍、壊疽へと進展し、最悪の場合は足切断を余儀なくされます。このようなことが起こらないようにするため、日頃から足病変が無いかどうかを見ておく必要があります。糖尿病外来の受診時に看護師が足に病変がないかどうかを調べ、



皮膚肥厚、胼胝、鶏の目、爪や足に水虫などの病変がある場合は早期に治療(フットケア)をし、早期に足病変の治療を行っています。

4 インスリン注射指導(看護師):インスリン注射が正しく行われているかどうかチェックするものです。インスリン注射を長く行っていると自己流となり、(注射しやすい)同一部位に注射を繰り返し、硬結を生じたりすると、インスリンの吸収が悪くなり、血糖コントロールが悪化する場合があります。看護師がインスリン注射の単位や注射の手技を確かめ、誤りがあれば正しい手技を身につけてもらうように指導しています。



5 糖尿病透析予防(医師、管理栄養士、看護師) 糖尿病は腎臓にも影響を及ぼします。血液透析の原因疾患の第一位は糖尿病です。血液透析は4~6時間程度透析の時間を必要とし、しかも、一日置きに施行しなければなりません。患者さんも大変ですが、莫大な医療費もかかります。しかし、糖尿病による透析は予防できる病気でもあります。予防する上で重要な点は、糖尿病性腎症はある病期を過ぎますと、腎機能は直線的に低下し、血液透析を免れることができなくなることです。その前に介入し、血液透析を防ぐことが重要です。

2012年厚労省から糖尿病透析予防の制度が創設され、私達も2015年からこの制度を活用し、医師、管理栄養士、看護師のチーム医療で透析予防を行っています。私達の検討でも早期の段階であるほど有効で、また、ある程度進行した腎症であっても、進行を遅らせることができます。当センターでは約100名近い患者さんにこの制度を使用し、予防活動を行っています。

以上、光晴会病院糖尿病センターにおける診療内容を紹介しました。糖尿病外来や入院治療と共に、院内患者会(青空の会)、糖尿病セミナーなどの様々の行事を通じて、我々医療スタッフは、糖尿病患者さんに正しい療養生活を身につけてもらうように心がけております。

尚、糖尿病センターは下記の医師、看護師、管理栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士、検査技師などの医療スタッフより運営されております。糖尿病について気になることがありましたら、気軽に当院糖尿病センターまでお越しください。

糖尿病センターの主な医療スタッフ

医師

赤澤 昭一(センター長)、世羅 康徳(内科部長)、
有森 春香(2017年4月~)、荒木 萌(2017年3月まで)

看護師

斉藤 和子(主任)、四辻 由紀、田口 美香

管理栄養士

篠崎 彰子(顧問)、若杉 礼子(主任)、北口 かおり

薬剤師

杉本 悠花(主任)、中司 梨沙

理学療法士

山口 卓郎

検査技師

深堀 泰孝(科長)

事務

小田 萌々





5時間リレーマラソン に参加しました!!

HCU 川口 遥

その日、手足が震えるほどの寒さの中、私はスタートラインに立っていました。その日の天気は曇り時々雨、最低気温0℃、最高気温4℃でした。凍えながら走り出したため、走り慣れるまで手足の感覚が鈍いのを感じました。2017年1月23日「親和銀行プレゼンツ第3回5時間リレーマラソン」に光晴会病院チームとして参加しました。「リレーマラソンって何?マラソンをリレーにするとか意味が分かんない。」と当日まで乗り気になれず、うつつを抜かしていました。走るコースは1周約1km、今回参加したメンバーは、外科の川上医師と進医師、引地事務長の他、看護師3名、管理栄養士1名、検査技師1名、社会福祉士(MSW)1名の計9名です。自分のペースに合わせて走れるので気持ち的には楽でした。そんな中、みんなのペースとは裏腹に暴走するメンバーが1名いました。その外科医は、10周(約10km)を2回走ってくれました(笑)。タスキをかけて走るメンバーを見て、気付けば夢中になって大声で応援している自分がありました。参加したメンバーの中には、初めての職員もいましたが、そんなのお構いなしでした。残り4時間を切った後からは、どのチームも全力疾走となり、どこのチームも一丸となって応援していました。昼間にさしかかり、雨も上がってほんの少しの間だけお天道様が見えた時の走っている選手の姿は忘れられません。5時

間が経過した時点で終了となるため、ゴールに到達していなくてもその場で終了となります。残り10分を切ったからは、最終ランナーを全員で応援しました。終了の合図が鳴った瞬間、どのチームもランナーを迎えに行き、一緒にゴールまで走る姿には感動しました。結果、光晴会病院チームは総合326チーム中38位(職場対抗の部16位)と高成績を収めました。走り終わるまで順位が分からないため、走りに自信がなくても順位を気にせず自分のペースで走ることができ、みんなで順位を予測しながら走る楽しみがありました。リレーマラソンでは、自分だけではなくみんなで協力し合ってゴールを目指すことの素晴らしさを味わえたことが私にとって何よりの報酬です。今回の競技に参加させて頂きありがとうございました。また、寒い中応援にきて頂いたスタッフの方に感謝いたします。

寒い中お疲れさまでした!!



ホームページがあたらしくなりました!

当院のホームページをご覧いただきありがとうございます。

4月よりホームページがリニューアルいたします。

レイアウトもページ移動もシンプルに見やすくなりました。

また、新たにスマートフォン対応となり、いつでもどこでも当院の情報を
ご覧いただけるようになりました。

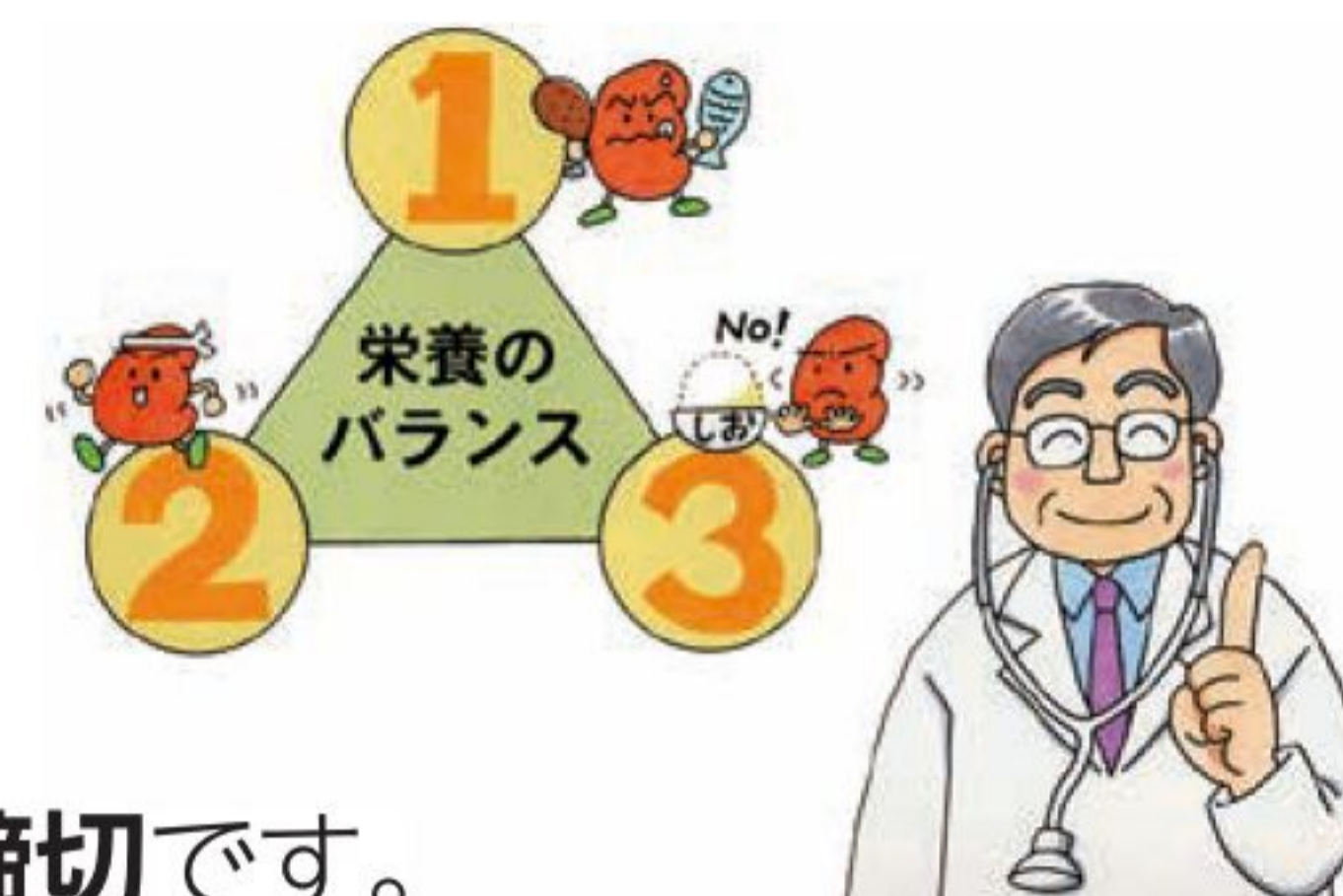
ぜひ、新しくなった当院のホームページへ遊びに来てくださいね。

教室のご案内

腎臓病教室

当院受診中の患者さん・ご家族はもとより、興味のある方はどなたでも参加できます。尚、会場の都合上、申込みは先着順となっております。

- **実施日**：3月、6月、9月、12月の年4回開催いたします。
平成29年3月4日(土)、6月3日(土)、9月2日(土)、12月2日(土)
- **場 所**：北棟2階 糖尿病センター内 多目的ホール
- **時 間**：10:00から13:00まで



- ①事前の予約・申し込みが必要になります。開催日の**3日前までが締切**です。
- ②当日は、総合受付で受付を済ませ、食事代として**500円**をお支払いください。

時間	内容	担当
10:00～10:40	腎臓の働きと腎臓病について	医師
10:45～11:30	腎臓病における日常生活の注意点 透析療法について	看護師
11:35～12:00	腎不全の治療薬について	薬剤師
12:05～13:00	管理栄養士による試食会 腎臓病の食事について	管理栄養士

- **対象者**：腎不全保存期(慢性腎臓病)の患者さん・ご家族、その他腎臓病に興味のある方。
- **お申込み・お問い合わせについて**

直接のお申し込みは「**総合受付**」にて受け付けております。

TEL、FAXでもお申し込みいただけます。

FAXの場合は、病院ホームページの「申し込みフォーム(PDFファイル)」を印刷し、必要事項を記入後、FAXしてください。

医療法人 光晴会病院 地域医療連携室 TEL:095-857-3563 FAX:0120-573-632

糖尿病教室

(1週目)

場所：糖尿病センター多目的ホール

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
12:00 } 13:00	食事はバランスが大切 毎食食べたい“3つのお皿”① (管理栄養士)		食事はバランスが大切 毎食食べたい“3つのお皿”② (管理栄養士)	
14:00 } 15:00	糖尿病とは? なぜ治療が必要? (医師) 糖尿病の検査について (検査技師)	日常生活での注意点と 自分でできる対処法 低血糖とシックデイ (看護師)	合併症について (医師)	治療薬について (薬剤師)

(2週目)

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
12:00 } 13:00	“間食とおやつ”の違い 知っていますか? (管理栄養士)		ちょっとした工夫で大違い 夕食メニュー選びの“コツ” (管理栄養士)	
14:00 } 15:00	食事・運動療法の重要性 (医師) 運動療法について (理学療法士)	日常生活での注意点と 自分でできる対処法 フットケアと口腔ケア (看護師)	糖尿病の治療について (医師)	復習タイム 振り返りと 重要点のまとめ

火曜日・木曜日は昼食(糖尿病食)あり。お薬やインスリンのある方はご持参ください。

※教室では「食品交換表」(972円)と「糖尿病治療の手引き」(702円)を使用します。(総合受付にて購入できます。)

教室参加は、事前にお申し込みをお願い致します。

教室参加のお申込み・お問い合わせについては糖尿病センター(内線3256)にお尋ねください。

外来週間診療予定表

土曜日は基本、内科は休診ですが緊急のみ当番制で対応します

平成 29 年 4 月 1 日現在

		月	火	水	木	金	土
内科	3 診	田浦直太 (消化器) 福田康弘 (消化器)	原口雅史 (消化器)	吉岡正人 (一般内科)	原口雅史 (消化器)	柴田雄一 (一般内科)	心療内科 (午前) 不定期休み
	4 診	宮崎健一 (腎臓・一般内科)	柴田龍二郎 (腎臓・一般内科)	福田康弘 (消化器)	大坪俊夫 (腎臓・膠原病)	柴田龍二郎 (腎臓・一般内科)	
	5 診	河野仁寿 (呼吸器)	森川伸雄 (呼吸器)	河野仁寿 (呼吸器)	森川伸雄 (呼吸器)	河野仁寿 (呼吸器)	
	6 診	和泉元衛 (甲状腺・肥満)	きらけいし 吉良圭史 (消化器)	柴田雄一 (一般内科)	きらけいし 吉良圭史 (消化器)	和泉元衛 (甲状腺・肥満)	和泉元衛 (甲状腺・肥満)
循環器内科	7 診	武野正義	石崎正彦	(再診のみ) 片山敏郎	武野正義	石崎正彦	
心臓血管外科	8 診	(新患紹介) 蒲原啓司	(新患紹介) 高木 淳	(新患紹介) 高木 淳	(新患紹介) 古賀秀剛	蒲原啓司	古賀秀剛
泌尿科	9 診	山下修史	堀 建夫	山下修史	大学医	堀 建夫	緊急症例のみ
外科	10 診	岡田和也	岡田和也	大学医	進 誠也	川上俊介	隔週 岡田和也 川上俊介
	11 診	岸川博紀	いけへ あやか 池辺 絢	岸川博紀	岸川博紀	吉本浩 (形成外科)	
						進 誠也 (おなかのヘルニア) (脱腸) 専門外来	
【午後】 14:00 ↑ 16:00	3 診			吉岡正人 (一般内科)	吉岡正人 (一般内科)		
	4 診		大坪俊夫 (CKD 専門)				
	8 診		第 1.3.5 週 13:00 ~ 15:00 高木 淳 (下肢静脈瘤専門)				
糖尿病センター 9:00 ~ 12:00		赤澤昭一 ありもりはる か 有森春香 フットケア	赤澤昭一 世羅康徳 フットケア	赤澤昭一 世羅康徳 フットケア	赤澤昭一 世羅康徳 フットケア	赤澤昭一 世羅康徳 フットケア	

◎大坪医師の火曜日午後は腎臓病疾患専門外来です

※ 診 療 科 目：内科・外科・泌尿器科・循環器科・心臓血管外科・消化器科・神経内科・リウマチ科・リハビリテーション科・呼吸器科・腎臓内科・形成外科・麻酔科・肛門外科・糖尿病内科

※ 診療受付時間：午前 8：30 より 午前 11：30 まで ※ 予約制ですので、できるだけ予約をお願い致します。

光晴会病院 地域医療連携室 TEL 095-857-3563 (直通) FAX 0120-573-632 (直通)

(コミュニケーションマガジン) 編集委員

編集・発行責任者：岡田 和也

編集スタッフ：高橋 (南3階) 竹邊 (北4階) 丸屋 (外来)
須川 (血液透析室) 平野 (中材)
川野 (臨床工学科) 吉井 (総務課)

医療法人 光晴会病院

〒 852-8053 長崎市葉山 1 丁目 3 番 12 号

TEL095-857-3533 FAX095-857-2572

<http://www.kouseikai.org/>